

富山大学

令和 7 年度完成の主な 施設整備事業

令和 8 年 6 月
富山大学 財務施設部

建物概要 案内図

建設地：富山県富山市五福3190（富山大学五福キャンパス）

建物名称：第1体育館	武道場
建築面積：1,324.24 m ²	583.70 m ²
延床面積：1,314.28 m ²	557.24 m ²
改修面積：1,314.28 m ²	557.24 m ²
階数：地上1階	地上1階
構造：鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
一部 鉄骨造	一部 鉄骨造

基本設計：富山大学財務施設部施設企画課施設設計画チーム
 実施設計：株式会社 鈴木一級建築士事務所
 工事監理：富山大学財務施設部施設企画課施設設計画チーム
 施工：名工建設 株式会社
 工期：令和 7年 8月～令和 8年 3月

キャンパス 案内

富山大学五福キャンパス



富山大学第1体育館・武道場改修

University of Toyama Arena No.1・Martial Arts
Gymnasium Renovation



2025.6

整備概要

誰もが安心して利用できる持続可能な施設整備

本事業は、正課（授業）で利用する学生はもちろん、課外活動で利用しているサークルに対してより良い環境での活動を提供することを目的とし、経年（55年）による老朽化・機能劣化の解消を図るものである。

また、令和6年能登半島地震では発災直後、近隣に住む学生等が避難してきたことから、今後の震災対策として学内の一時避難施設としての活用も期待できる。

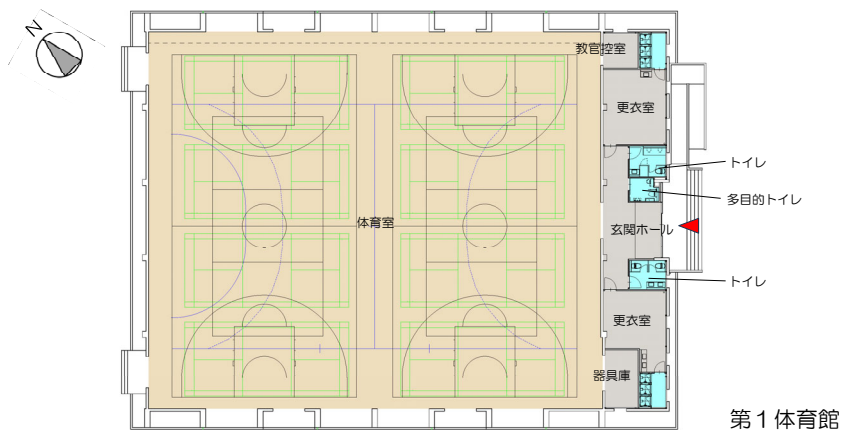
各建物の環境負荷低減及び快適な室内環境を目指し、屋根及び外壁は外断熱を行い、外部建具はLow-E複層ガラスを採用することにより、断熱性能の向上を図った。

地震時に転倒する恐れのある、コンクリートブロック壁については、撤去又は鉄骨補強を行い、安全・安心な体育施設の整備を行った。

第1 体育館

一時避難施設の機能を持たせた体育施設への改修

床の段差解消、スロープ整備、トイレの洋式化、多目的トイレの新設等により、バリアフリー化及び利便性向上を行った。また、体育室の床をフローリングから弾性ビニル床シートへ更新することにより、フローリングのササクレによる怪我のリスクを回避するとともに、併せて冬期の床冷え対策を図り、一時避難施設としての機能を持たせた。



省エネ計画

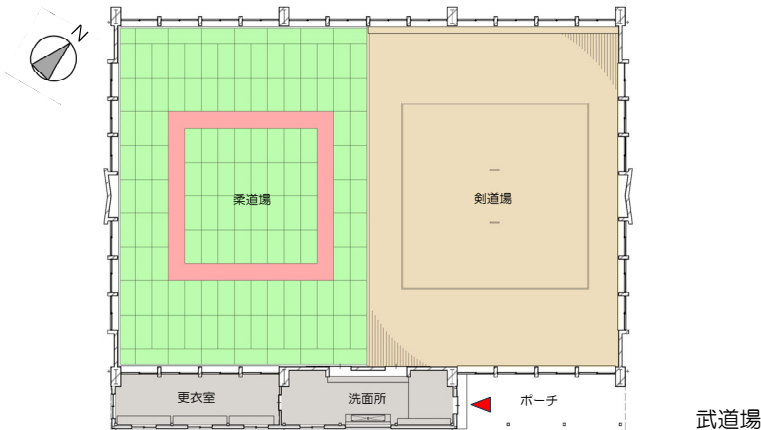
環境に配慮した設計

- 1)Low-Eガラス、外断熱(屋根・外壁)による断熱性の向上
- 2)体育室のフローリングを弾性ビニル床シートに更新を行いメンテナンス性の向上
- 3)外観デザインを紫外線反射率の高い白基調とし、劣化防止対策を行った
- 4)修繕時に処分材を発生させにくい内装材を選定し、環境配慮を行った
- 5)省エネルギー性に配慮した照明器具のLED化

武道場

建物の機能向上及び安全かつ快適な施設環境への改修

洗面所と更衣室の間の段差を解消するとともに、更衣室における視線対策を講じることでプライバシーを確保した。併せて、柔道場床については東部分から改修し、競技に必要な反発性を確保し、剣道場床についてはウレタンオイル塗装への改修により、競技に求められる摩擦力を確保するなど、学校施設の機能向上と教育環境の改善を図った。



建物概要 案内図

建設地：富山県富山市五福3190（富山大学五福キャンパス）

建築面積：北館 1,839.12 m²

延床面積：北館 4,557.00 m²

改修面積：北館 2,617.51 m²

階 数：地上3階

構 造：鉄筋コンクリート造

基本設計：富山大学財務施設部施設企画課施設設計画チーム

実施設計：(株)HTAデザイン事務所（建築）

(株)新日本設備計画（設備）

工事監理：富山大学財務施設部施設企画課施設設計画チーム

施 工：東武建設(株)（建築工事）

（Ⅰ期）：成瀬電気工事(株)（電気設備工事）

：河崎設備工業(株)（機械設備工事）

工 期：（Ⅰ期）令和7年8月～令和8年3月

（Ⅱ期）令和8年5月～令和9年2月

施 工：未定

（Ⅱ期）

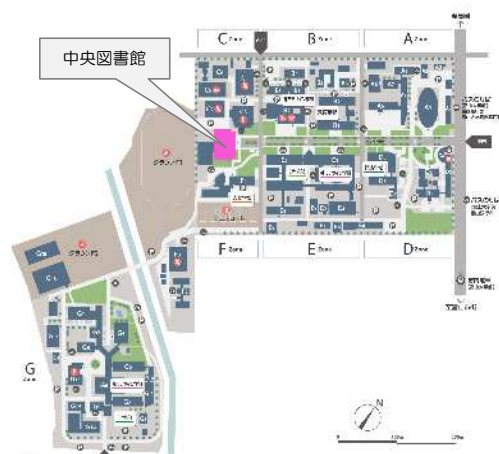
キャンパス 案内

富山大学五福キャンパス



Copyright (c) 2005-2007
UNIVERSITY OF TOYAMA. ALL Rights Reserved.

五福キャンパス 案内図



五福キャンパス 配置図

富山大学中央図書館改修

University of Toyama Central Library Renovation



内観イメージ



整備概要

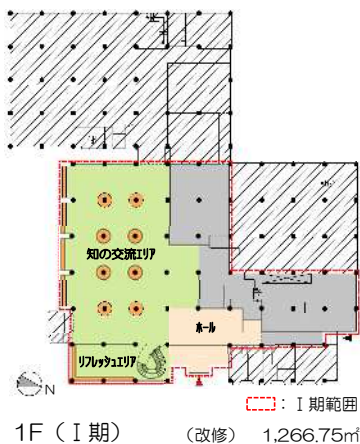
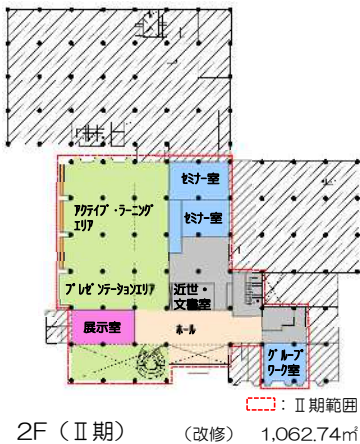
新たな交流拠点への改修

本学のキャンパスマスタープランに定められている、社会に開かれた多様で魅力的な交流機会を提供するための拠点が、現状学内ではなく、中央図書館における拠点設置を検討している。しかし、52年前に設計された中央図書館で実現するには機能的制約があり困難である。本事業によりその制約を撤廃し、「知識交流館」に進化させる。本改修により安全安心の確保および施設設備の省エネルギー化を図るとともに、改修により創出する共創拠点において、書架の低層化で生み出される全壁面および天井スペースを有効活用し、多様な人・知識・アイデアが相互に出会える画期的な空間化を実現する。同時に、全キャンパス9学部をDX化により横断させる、教育研究のハブの構築を図り、リフレッシュエリアでは、人々が集まる憩いの場の創出を図る。さらに、至宝の小泉八雲の蔵書「ヘルン文庫」を常設公開するスペースを創出し、文化継承および歴史研究体制の持続・発展と地方創生に貢献する。

空間計画 1

利用形態に合わせた空間の整備

1階の交流エリアは静的な空間とし、低書架の配置と既存柱を利用した円形テーブルを配している。円形テーブル上にはカーテン生地を利用したシェードを設置することで、緩やかに区切られた利用しやすい空間としている。
2階アクティブラーニングエリア/プレゼンテーションエリアは動的な空間とし、仕切りの無い大空間として整備している。一部天井に楕円形のルーバー天井を設置し、大人数がこの天井の下で交流するこの部屋にふさわしいデザインとしている。



省エネ計画

環境に配慮をした設計

- 環境配慮の取組み
 - 内断熱材吹付
(厚さ40mm 硬質発泡ウレタン吹付)
 - 複層断熱ガラス(熱貫流率: $1.6W/m^2 \cdot K$)
※単板ガラス(熱貫流率: $6.0W/m^2 \cdot K$)
 - 人感センサー照明制御
 - LED照明
 - 窓側明るさ連続調光制御
 - タスクアンビエント照明の採用



空間計画 2

人々が集まる憩いの場の創出

リフレッシュエリアは窓際に木の温かみを感じるルーバーとベンチを設置している。ルーバーは東日を遮蔽し、ベンチに吹き出し口を設けることで、学生がくつろげる拠点整備を行った。また、窓の外はキャンパス中心部を望むことができるため、下部はルーバーで視線を通し、上部はカーテンでより効率的な日射遮蔽としている。



空間計画 3

ヘルン文庫常設展示スペースの整備

常設展示室は、南館のヘルン文庫に所蔵している一部の資料やラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の功績等を紹介する空間であり、外光を抑えながらも他の空間とのつながりを持ち、落ち着いた展示室としている。

